

令和2年度より研究委員会「道徳アーカイブ事業」として実施している実践事例原稿公募に際し、会員各位の深甚なるご理解と積極的なご応募を賜り、研究委員会として厚く御礼申し上げます。

さて、この度応募いただいた実践事例原稿を学会ホームページで公開するにあたり、研究委員会内にて「事例掲載検討についての内規」に則って採用の可否を検討させていただきました。応募実践事例原稿は2編（いずれも分類Ⅰ「道徳科授業の工夫」）でしたが、「内規」に照らして詳細まで審議させていただいた結果、今年度は下記の論文が掲載されることとなりましたので、ここにご報告申し上げます。

《令和4年度 研究委員会「道徳アーカイブ事業」実践事例公募採用原稿》

分類Ⅰ：実践テーマ「複数時間で展開する道徳科授業に関する一考察～『生命の尊さ』を主題とする人物教材について関連価値をもとに考察させる試み～」

実践投稿者 遠藤 信幸会員（所属／東京学芸大学附属小金井小学校）

なお、本事業では最終的に実践事例論文を1編のみに絞り込むといった発想は全くもっておりません。あくまでも「事例掲載検討についての内規」に則っての可否判断となります。また、掲載に至らなかった実践事例原稿については次年度の再投稿に向けて研究委員会各委員より改善提案コメントを投稿者にお示しさせていただいております。積極的にご応募いただいた皆様に改めて御礼申し上げるとともに、次年度も多くの事例原稿の投稿をご期待申し上げます。

\*参考までに、実践事例原稿ご執筆の際に留意いただきたい事柄を以下に示させていただきます。

- ①その実践に取り組む際、執筆者が前提とした問題意識は何でしたか。そして、何を明らかにしようと実践に組まれたのですか、また、その成果はどうであったのか明確に述べられていますか。
- ②その実践を進めるにあたり、他の先行事例や先行研究等を確認しながら追試可能な客観性ある方法や手続きを経て執筆されていますか。
- ③その実践で導き出した成果や効果の妥当性は、他の追試でも実証可能なものとなっていますか。
- ④その実践を考察する際、論理的な飛躍や信憑性等で疑念を抱かれるような取りまとめになってはいませんか。
- ⑤その実践事例は会員のどなたが一読しても、取り組みの全貌が容易に理解できる記述表現となっていますか。

せっかく取り組まれた実践研究事例原稿です。平易で読みやすく、論理的な記述構成になっていて、その成果検証を自分も試してみようかと思えるような原稿内容となるよう是非とも心がけていただきたいと思います。

\*研究委員会では、実践事例原稿の取りまとめ方について「オンライン論文作成セミナー」として令和3年度より実施しています。それ等も併せ、ご参考に執筆して頂きたいと思っております。